

2020. 9. 14

# Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線 植物モニタリング活動

## モニタリングのコースは普通の道

### 散歩しながらでも見つけられる珍しい花



毎週のように行っている植物観察活動（モニタリング）は、左のマップのS地点（ため池公園の梅林下）に集まって出発し、まず①城址地区をひと回りします。Sの地点に戻ってきてから、今度は道路を渡って②八丁目の林の外側で街路に咲いている植物や林の中をのぞきながら、新大宮バイパスにかかる陸橋を渡って③大門地区に入り、同地区のいちばん東側の大門広場E地点で解散となります。

観察中に草取りをするなど特別な場合を除いては、林の中に入ることはありません。林床（りんしょう＝林の中の地面）を無用に踏み荒らすことは良くないので、一

般道路か緑道の誰でも歩ける道から観察しています。それでも、ここには他の場所ではなかなか出会うことが出来ない花がたくさんあります。

赤塚城址のてっぺん、本丸跡のバッタ広場の前の草むらでは、いま**チカラシバ**（右の写真）が全盛。同じイネ科のエノコログサを巨大化したような野草ですが、雨の降った後、穂先に雨粒を溜めているのがとてもきれいでした。花の付き方が**ミズヒキ**に似ていて黄色い花を付けているのは下の左の写真**キンミズヒキ**。



ミズヒキはタデ科ですが、こちらはバラ科の植物です。バッタ広場の囲いの樹木に絡んで花を咲かせ



ているのは**ガガイモ**。今の時期は花よりも大きな莢（さや）状の果実が観られます。こちらはキョウチクトウの仲間。

## 「八丁目の林」の不思議

前ページのマップに②八丁目の林とありますが、赤塚公園にはこの地区名はありません。マップをよく眺めると、城址地区とは大昔からあった谷筋（今は下赤塚駅につながる赤塚中央通り）と区切られています。その一方で大門地区の崖線とはラインが繋がっています。マップでは新大宮バイパスによって分断されていますが、1974（昭和49）年に都立赤塚公園が開園した当時はまだ新大宮バイパスは出来ていなかったもので、もともとは大門地区の一部として扱われていたと思われます。そのために、このエリアの地区名がないのでしょう。

三角地帯のこの②エリアは、狭い面積にもかかわらず、他の場所では見られない野草がたくさん生きています。ボランティア活動者は昔からここを独立したエリアとして「八丁目の林」と呼んできました。不思議なことに今でも初観察の種が続々と出てくる場所です。

9/14の観察活動では、赤塚中央通りからコンクリートの擁壁の上を見上げたら**センニンソウ**がたくさん咲いていました（写真上）。赤塚公園では滅多に見られない希少な種です。また、ここから大門方向へ上る階段の途中には**センダン**の木があり（2枚目階段の右の林から人の頭上にせり出した樹木）、青い実を鈴なりに付けていました。両種ともに以前から元気に生きていたはずで、わたしたちが気付かないまますごしてきたのでしょう。



## クズの花が手に取るように見られる唯一の場所



この八丁目の崖上の部分、新大宮バイパストンネルの壁のある道は国の管理です。サツキツツジの植え込みの中に生えていたイタドリはここでしか見られないものでしたが9/14の観察ではすっかり除草されていました。

その代わりというのも変ですが、林の樹木を覆っている**クズ**は放置状態で、大門につながる歩道橋のたもとからは花が間近に観察できました。普通は樹木に絡んで高い所まで伸びたつるの先で開花するので、このように目線を合わせて観られるのは珍しいです。

## モニタリング(植物観察・記録)活動 だれでも歓迎!

10月までの予定 9/21、10/5、10/12、10/19 いずれも 9:00

赤塚ため池公園梅林下出発 雨天中止

お問合せは赤塚公園サービスセンターまで ☎03-3938-5715